

【投薬による副作用について】

薬は、痛み止めでも血圧の薬でも「効果（＝作用）」と「副作用」があります。副作用が出る確率は、大体「5%以下」で、その内容は、薬の添付文書に記載されています。その確率が20%以上のものもあります。頻度不明のものもあります。基本的に医師は、「薬の効果が出て、患者さんの症状が減って楽になるだろう」と期待をして薬を処方するわけですが、残念ながら、その意図に反して「副作用」が出てしまうことがあります。

特に、重い副作用が出た時は「息苦しくなったり」「意識を失ったり」など、頻度は非常に低いですが、命にかかわる重篤な副作用が出てしまうこともあり、それにより「後遺症」が残ってしまった事例も全国的にはあります。

しかし、その非常に低い確率に、自分が当たる可能性があります。ですので、薬は1種類でも少ない方が良いですが、病気の発生・再発を防ぐために、どうしても必要なものもあると思います。

まずは、自分が飲んでいる薬をインターネット等で調べて、副作用にどんなものがあるかを知っておくべきでしょう。

そして、不安な場合は、その薬を処方してくれた主治医に遠慮なく聞いてみて下さい。

※あくまでも私個人の意見です。

2021年5月31日作成

整形外科医 秦 祥彦

(しん整形外科院長、緩消法認定技術者)